



先輩と語り合ったひととき

先輩と話そう会

9月17日(土)、松戸市勤労会館にて「先輩と話そう会」が開かれ、中学生会員11名と当会卒業生など11名が参加しました。

先輩からは、高校での勉強、部活、友人関係など楽しいこと苦しいことの話がありました。「どのようにして日本語を上達させたのか？」の質問には「部活や友人たちのおしゃべりで、あるいはテレビのアニメなどをみて」「日本語上達の壁はあったが、それを乗り越えると楽になった」などの答えがありました。中学生はその話に熱心に耳を傾けていました。

グループ懇談の後のグループ対抗ゲームで、和やかな中に有益な時を過ごしました。

中学生には、先輩の話から努力と苦労は夢の実現につながるという確信を持ってもらいたいと願います。(今井 記)



音楽で楽しんだおやこ会



12月3日(土)常盤平市民センターで「おやこ会」を開き、子どもと保護者、スタッフなど総勢43名が参加しました。教室毎に自己紹介の後、火曜教室と初級クラスが合同で「ドレミの歌」を、土曜教室は「キラキラ星」を英語、中国語、日本語で発表しました。どの子どもも緊張気味でしたが、お父さんやお母さんに観てもらい、うれしそうでした。

ゲストによるチェロとキーボードの生演奏もあり、子どもたち全員がマラカスや鈴を手に合唱するなど音楽を楽しみました。最後にビンゴ大会で盛り上がり、みんな笑顔で解散となりました。(田窪 記)



今年もゲームや展示が人気

国際文化祭

10月22日(土)10時から15時まで、松戸市民会館で開催された「松戸市国際文化祭」に昨年に引き続き出展しました。今回も入口そばのスペースだったので80名を超える人達が当会のブースに寄ってくれました。

中でも恒例の「世界の国のあいさつ」マッチングゲームが人気でした。また、この日ホールイベントに出演するサンバチーム所属の卒業生が挨拶に来てくれました。そのほかツアーコンダクター、青年協力隊員、元高校教師も興味を持ってくれ、当会のPRになりました。(福島 記)



2023年今後の予定

- 常盤平火曜教室 …………… 1/10～3/14
- 新松戸教室(水曜) …………… 1/11～3/22
- 常盤平木曜教室 …………… 1/12～3/23
- 常盤平土曜教室 …………… 1/14～3/18
- 文化ホール教室(土曜) …… 1/14～3/18
- 受験教室(日曜) …………… 1/8～3/12
- 初級クラス …………… 1/14～3/18

常盤平 火曜教室

「～よりって何？」

火曜教室で中国人の小1男子を担当しています。算数が大好きで入学当初から遊び感覚で2桁の足し算までも楽しんでいました。が、ある時「100より8大きい数は？」という問題が分かりませんでした。彼の力からすれば簡単なはずなのに？としばらくやり取りをして分かりました。彼は「～より」という言葉を理解していなかったのです。日本人の子どもなら自然に覚える言葉も外国語母語の子どもたちにはつまずきになりうるのだと気づかされました。毎日が試行錯誤ですが私の方が教えられることが多いような気がしています。(伊藤 記)



高い学習意欲に应运

新松戸教室(水曜)



新松戸教室唯一の小学生(6年)、ネパール出身の女子児童を9月から担当しています。来日から一年ですが、ひらがな、使用頻度の高い漢字は、容易に読み書きできるようになっています。日本語は、学校生活をテーマにした教材を使用し、掲出の例文を参考に、自分で文章を作る練習をしています。前回の授業で、繰り返し動詞の変化を読み書くうちに、彼女自ら活用形の法則を発見したことに感動しました。

彼女の高い学習意欲と向上心を保てるように、これからもサポート、指導していきたいと思います。(高田 記)

常盤平 木曜教室

高校進学に努力する生徒の力に

令和4年度の「まつど地域活躍塾6期生」として、実地体験先にこの会を選んだのが入会のきっかけです。教育機関に携わった経験、あるいは在住外国人の増加の中で、この会に関心を持っていました。

希望の高校進学に向けて一生懸命努力している生徒の姿を見たとき、少しでも力になればとの思いです。時代とともに教育内容も変化しているので教科指導に奮闘中です。

外国人住民も共に学んで暮らすことができる多文化共生にお手伝いできればと思っています。(榎谷 記)



生徒が話しかけてくれるようになった！

常盤平 土曜教室



土曜教室では兄弟で学ぶ子が多く、様々な国の子がいます。私は3年生の子を担当しています。最近まで私が聞くことに小さな声で返事をしていましたが、自分から私に話しかけてくれるようになりとても嬉しく思っています。

11月、12月には外部からの見学者、大学の実習生を受け入れ、指導に参加してもらっています。参加者の方々には各教室で教えていただけることになりました。

また、教室では「買い物ごっこ」の準備と12月3日のおやこ会に向けて意見を出し合っているところです。子供たちも楽しみにしています。(富岡 記)

文化ホール教室(土曜)

頼れる人、居場所が日本語習得につながる

外国人の子どもに日本語を教える経験を通して学んだことは、まずは相手に心を開いてもらうことです。10代のうちから自分が生まれ育った場所から離れ、新しい環境に身を置くことは心細いはず。そんな中で、1人でも彼女の生活を気にかけて、頼れる人がいて、安心できる居場所があるということは彼女にとって大きなことだと思われ、それが日本語習得の意欲にも繋がると思われます。新しい環境で生活していく不安を少しでも減らせるような存在でいたいと思います。(池松 記)



連続講座「多文化共生は未来のカギ」

—松戸市との協働事業—

当会では、外国にルーツを持つ子供を支えるために5回の連続講座を企画し、8月に第1回目を行いました。秋に入ってから4回の講座の様子をお伝えします。

9/4 日曜 第2回「アフリカ少年が日本で育った結果」

海外ルーツの子どもの実感を聞く

漫画家の星野ルネさんを講師に迎え、スクリーンで漫画を交えながらのお話を聞きました。星野さんはカメルーン出身で、4歳で日本に移り住み、現在に至るまで日本社会で生きていらっしゃいます。様々な体験談はもちろん、めったに聞く機会のない海外ルーツを持つ子の両親の話や、子と親の話、ときには兄弟同士でも起こる家庭内でのギャップの話も聞くことができました。また、自分のルーツに対する受け止め方についても話してくださいました。

海外ルーツも持つ星野さんだからこそ見える多文化共生の視点は、参加者にも好評を得て、講演は無事に終わることができました。(小山 記)



10/16 日曜 第4回「共存」から「共生」へ ～外国人住民を交えた地域づくり～

本当に共生していますか

埼玉県川口市芝園団地自治会事務局長を務める岡崎広樹さんを講師に迎えて、芝園団地での実践例をご紹介いただきました。参加者は「共存」(お互いに静かに過ごせる関係)と「共生」(お互いに協力する関係)をキーワードに、ワークショップを通して多文化共生について考える時間となりました。参加者からは、「外国人だけの問題ではない。日本社会の問題として自覚していくきっかけとなった」「日本人社会が本当に“共生”していますか?翻訳チラシをつくれればOKではない、“伝える→伝わる”に。“出会わなければ始まらない”とても心に響く言葉ばかり」「日本の社会そのものが共生しづらくなっていませんか?という投げかけは、新鮮でした」といった感想をいただきました。(鶴田 記)



9/25 日曜 第3回「外国人の子どものための やさしい日本語講座」

疑似体験で外国人の子どもの気持ちに

講師に、やさしい日本語アドバイザーの黒田友子さんを迎え、お話とワークショップの講座でした。ビルマ語での授業体験(書く、読む、話す)では、外国人の子どもが日常、どんな気持ちで学習しているかを知りました。

そして「やさしい日本語」が、現時点での日本語力と授業や教科書との橋渡しの役割であること、そのために話す言葉は短く、平易に、具体的に、またイラスト、ジェスチャーを用いるなど、心がけることが大切だということ学びました。教える側としてすぐに実践できる有意義な講座でした。(南部 記)



10/23 日曜 第5回「日本語を学ぶ外国人の子どもを どう支える?」

やる気にさせることがポイント

東京外国語大学准教授の小島祥美さんを講師に迎えました。講師は小学校教員、外国人児童生徒コーディネーター、大学教授と多彩な経歴をお持ちで、有意義なお話をたくさん聞くことができました。

その中の一つは、外国にルーツを持つ子どもの日本語は、「日常的な学校生活で必要とされる言語能力」は1.2年で獲得できるが、「教科学習で必要とされる読み書きなどの言語能力」獲得には5年以上かかるということ。そして「書き」が最も重要であるということ。

また、「学力」は「知識・理解」「判断・思考」「意欲・関心・態度」で身に着くこと。関心を持たせ、やる気を起こさせるのが支援のポイントであることなどを学びました。(海老名 記)



協働事業で初級クラスをトライアル



協働事業のグループでは目標の《学習支援の機会増》として「オンライン学習の導入」と「来日したばかりの子供の学習の場」を検討してきました。

そして9月から常盤平で“あいうえお”から始まる初級クラスを開いています。日本語にも教室にも慣れてないため、キョロキョロする子や固まってしまう子、会話が飛んでしまう子など反応はさまざまです。だから教える僕らが信用出来る人である事、教室が楽しい場所である事を理解してもらうの1番大事だと感じます。子どもの変化を見逃さず、日本語を学ぶ意欲に変えられるよう毎回工夫しながら取り組んでいます。(大澤 記)

QRコードから
アクセスできます



ホームページをリニューアルしました

URL:<https://esco-matsudo.org>

2014年に立ち上げたホームページには、すでに8万件以上のアクセスがあり、当勉強会に関心を持つ人も年々増加しています。この度はデザインを一新して、アクセスしていただいた方が必要な情報をより得やすいように工夫してみました。



| | 教室名 | 場所 | 時間 | 生徒数 | 内訳 | スタッフ |
|------|-----------------|------------|-------------|-----|---|------|
| 定例教室 | 常盤平火曜教室 | 常盤平駅前教室 | 16:00~17:30 | 5名 | 小学生(中国、フィリピン) | 6名 |
| | 新松戸教室 (水曜) | 新松戸市民センター | 16:00~19:30 | 10名 | 小学、中学、高校生(中国、フィリピン、スリランカ、 コロンビア、ネパール、ベトナム) | 12名 |
| | 常盤平木曜教室 | 常盤平駅前教室 | 17:00~19:00 | 6名 | 中学、既卒生(フィリピン、アフガニスタン、中国、パキスタン) | 6名 |
| | 常盤平土曜教室 | 常盤平駅前教室 | 10:30~12:00 | 7名 | 小学生(カナダ、ベトナム、パキスタン、スリランカ) | 7名 |
| | 文化ホール教室 (土曜) | 文化ホール | 15:30~17:30 | 17名 | 小学、中学、高校、既卒生(中国、パキスタン、ネパール、 ナイジェリア、スリランカ) | 17名 |
| 集中教室 | 受験教室 | ゆうまつど、勤労会館 | 13:30~16:45 | 13名 | 中学生、既卒(フィリピン、ベトナム、中国、ネパール、 パキスタン) | 26名 |
| | 初級クラス | 常盤平駅前教室 | 13:30~15:00 | 5名 | 小学生、中学生(インドネシア、フィリピン、中国) | 6名 |

2022年11末日現在、定例教室生徒数45名、スタッフ48名。
集中教室は生徒、スタッフともに重複して参加しているものも含めての数字です。

🍀ご寄付をありがとうございました (敬称略・順不同)

2022年5月 三石治子・小野廣子・長谷部邦子・鶴田真二・吉道正夫・荒井さゆり・湯目勇三・平野将人・中村貢・
富田光・匿名1名 2022年8月~11月 グラン優那・小野廣子・鶴田真二・湯目勇造・吉道正夫・チャラギ敦子・
米山衣江・浦部珠代・杉内郁子・栗原裕子・山本美知子・立正佼成会一食地域貢献プロジェクト二〇二二松戸委員会・
神谷日出夫・田野国俊

🍀寄付のお願い

外国人の子ども支援を充実させるために、あなたの援助が必要です。ご支援をよろしくお願いいたします。

🍀 寄付金:一口 1,000 円(一口以上)

🍀 寄付振込先:

① 郵便局 (ゆうちょ銀行) 郵便振替口座:No. 00220-2-140682

加入者名:NPO 法人外国人の子どものための勉強会

(払込取扱票を使ってゆうちょ銀行口座から振り込みますと手数料は掛かりませんが、
現金振り込みには110円掛かります。)

② 銀行 千葉銀行 南流山支店 普通口座:3193898

口座名義:外国人の子どものための勉強会 代表 海老名みさ子

🍀 当法人への寄付は、「認定NPO 法人等寄附金 特別控除」の対象となり、確定申告の際に優遇されます。

編集後記

教室へ行く途中のスーパーで、カブとみかんを買いました。子ども達に「これは何」と聞くとカブを知らない子やみかんをオレンジと答える子がいました。「いくらだと思う」の質問に様々な金額が飛び交い、小学生にとっては難しかったようです。絵や写真で名前を覚えるだけでなく、現物を見せることも大切だと思いました。(I.T記)